第１回佐賀市総合計画審議会（全体会）　議事録

◆　日時
令和６年５月１６日（木）１０：００～１２：００

◆　会場
ホテルマリターレ創世佐賀　グランデピアッツァ

◆　出席委員（敬称略、五十音順）　※◎は会長、○は副会長
荒木健、有田武史、池田敦子、伊藤喬、猪八重拓郎、今村正治、牛島英人、内川実佐子、内山真由美、大江登美子、大島清美、岡山香織、小城原直、上赤博文、北原奈津紀、木村恭子、近藤慎也、坂井克宏、庄野雄輔、杉山利則、髙田理世、○田口香津子、谷口仁史、筒井洋平、鳥井智子、内藤正隆、野中明、林正博、福成有美、溝上良雄、宮城亮、宮﨑悟、宮﨑陽治、村井慶史、◎山下宗利、山田健一郎、吉原正博、吉村純子
渡島隆章

◆　欠席委員（敬称略、五十音順）
梅﨑義高、かくもとしほ、野田直子、平野正人、古園裕久、細川亮

◆　事務局
坂井市長、坂井総務部長、古賀経済部長、川副農林水産部長、稲又都市戦略部長、江頭建設部長、宮﨑環境部長、片渕市民生活部長、森保健福祉部長、大久保子育て支援部長、大松教育部長、大坪地域振興部副部長、志波政策推進部副部長、白濵企画政策課長、藤本行政マネジメント課長　外

◆　傍聴者
１名（報道関係者を含む。）

◆　議事要旨
１　開会

２　佐賀市総合計画審議会の設置にあたって
(1) 佐賀市総合計画審議会について
≪説明≫
○総合計画・総合計画審議会の概要に関する説明（事務局）　資料１

(2) 計画策定の背景について（人口構造の変化と発想の転換）

≪説明≫

○佐賀市の人口推計とそれに対する考え方に関する説明（事務局） 資料１

≪意見交換等≫

○司会（事務局）

ただいま、総合計画と佐賀市総合計画審議会の概要について説明を行った。この内容について、ご質問があれば伺いたい。

○委員

P18 に記載されているバックキャスティングについて、未来の変化を予測してそれに対して施策を打つということで、この考え方に転換されたのは非常に良いと思う。どうして今までバックキャスティングを採用していなかったのか。そして、どういう考えで今回、基本的な考え方として取り入れたのかを伺いたい。

○事務局

これまでの計画においても、将来的にどういう社会にするのかを考えたり、その分野別の目標設定は行ったりしていた。それを今回、改めてバックキャスティングという考え方として、戒めとして採用しているところがある。

行政課題はどうしても近々の課題が多く、それを随時解決していくことに集中しがちである。すると、例えば５年くらいの計画を立てたときに、どうしてもこれまでの前例、経験則、そして近々の課題といったところに囚われやすいきらいがある。

今回、１０年後、１５年後にどういう社会をつくるのかというテーマをあえて設定し、その中でどういうところに重点的に取り組むのか、データ分析を行いながらしっかり作りこんでいきたいと考えている。

○委員

人口減少を基本にしながら、いかに守っていくかということだと思うが、あわせて、この問題を解決するためには、人口を増やすということが一番だと思う。もちろん減るということを前提にしながら、いかに生み出していくかといったところについて、対策もあわせて書くべきじゃないかと考える。佐賀市でも様々なイベントをされていると思うが、その中において出会いの機会等を取り入れるとか、いろいろ工夫しながらできれば、少しでも増えていくのではと考える。

○事務局

資料Ｐ 17 で触れているが、人口減少とは一定程度向き合うべき課題だと捉えている。

それを踏まえた上で、人口減少の幅を上向かせる取組については、しっかりと考えていきたい。人口減少というと様々な要因がある。例えば、その出産・出会いがあって、就職とか進学、就職とか、それぞれのタイミングがある。そういう中で、どういうところが主なネックになっているのかを洗い出しながら、行政が重点的に取り組むべきことをこの計画の中で考えていくべきと考えている。

3　辞令書交付

4　市長あいさつ

○市長

第１回佐賀市総合計画審議会の開催に際し、委員の皆様のご出席、ご就任に感謝申し上げる。

我が国は明治以来、人口爆発といわれる時代を経験し、現在は社会が成熟し人口が減少する時代に突入している。これまで経験したことのない時代を迎えていると言える。世界に目を向けても、これほど長寿で高齢化が進み、人口減少を迎えるという点で日本は先進国である。この点で、これから未来に向けた施策を打ち、活気ある社会を築くことで、日本がロールモデルとなる可能性も秘めている。

後ほど総合計画案について説明するが、16 年後の佐賀市の姿として、佐賀市はバルーン、空に魅力があるということで、「佐賀らしさで上を向くまち」を目指したいと考えている。

この総合計画は市の最上位計画であり、社会、経済、行政のあらゆる面で発想の転換が必要である。具体的には、これまでは全体としての効率を追求してきたが、これからは一人一人に光を当てるべきである。一人一人の幸福度を高め、自分らしく生きられるまちを目指す必要がある。

審議会での議論を通じて、総合計画がより良いものにブラッシュアップされることを期待している。皆様には多忙の中での短期間の審議となるが、忌憚のない意見をいただき、それぞれの知見や経験からのご助言を賜りたい。どうぞよろしくお願い申し上げる。

5　会長・副会長の選任について

○司会（事務局）

佐賀市総合計画審議会条例第３条第１項により、「審議会に会長・副会長を置く。」、また第２項により、「会長・副会長は、委員のうちから互選する。」となっている。まずは、会長をどなたかご推薦いただきたい。

○委員

佐賀大学の山下委員を推薦する。

〇司会（事務局）

山下委員を会長にご推薦いただいたが、いかがだろうか。

＜拍手＞

〇司会（事務局）

それでは、山下委員に会長をお願いする。

続いて、副会長を１名どなたかご推薦いただきたい。

〇委員

田口委員を推薦する。

〇司会（事務局）

田口委員を副会長にご推薦いただいたが、いかがだろうか。

＜拍手＞

〇司会（事務局）

それでは、田口委員に副会長をお願いする。

6　会長・副会長あいさつ

〇会長

総合計画は市の最上位計画ということで、この審議会は非常に重要な会議と認識している。メンバーは 45 名で、子育て、健康、福祉、環境、教育、生活、農林水産業、産業、防災、都市計画など、多岐にわたる専門家の委員で構成されている。

皆様方の貴重なご意見を賜りながら、市長からの諮問に答えたいと考えている。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げる。

〇副会長

坂井市長から発想の転換をと言われたが、SDGs の前文には全ての人々の人権を実現し、ジェンダー平等と全ての女性と女児の能力強化を達成することが謳われている。ジェンダー平等を進めることが、非婚化や少子化、人口減少に歯止めをかける大きな要因であると考えている。

今回の計画には、特定の部門ではなく、全体にジェンダーをはじめとした多様性の視点を盛り込むこと、そして既に計画の一部に含まれているが、今を生き未来を担う子ども

の意見をしっかりと反映することが重要である。この２点を意識し、皆さんと協議しながら取り組んでいきたいと考えている。どうぞよろしくお願い申し上げる。

７　諮問

○市長

第３次佐賀市総合計画（案）について諮問する。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げる。

８　総合計画（案）の概要説明

≪説明≫

○総合計画（案）の概要に関する説明（事務局）　資料２

≪意見交換等≫

○会長

ただいま総合計画（案）概要について説明を受けた。

ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

計画の進行管理に関してＰ６に示されているが、これに異論はない。しかし、行政に必要なのは PDCA であるべきで、肝心なアクション（A）が欠けていることが問題である。アクションがないために、過去に市が作成した様々な計画が実行に移されず、結果が出ていない。具体例を挙げると、平成 13 年の佐賀市観光振興戦略プランである。計画は作成されたが、アクションがなかったため、観光戦略としての成果が見られない。

このように、進捗管理においては PDCA のアクションが最も重要である。民間企業ではアクションがなければ計画は実現しない。このアクションを計画の中でしっかりと盛り込んでいただきたい。

○事務局

PDCA について、当然アクションを含めて役所でも事業を進めている。一般的には PDC と言ったり PDCA と言ったりするが、その整理については後ほどさせていただきたい。おっしゃるとおり、アクションは非常に重要であり、今後も役所として重点的に取り組むべきことを明確にして進めていくことが大切だと考えている。

○委員

佐賀市民の Well-Being について、中身を理解できないのでご教示いただきたい。

○事務局

Well-Being について、説明が不足していたので補足したい。行政の計画を作成する際には成果指標を設定する。具体的な数値で測れるものをよく使うが、今回の総合計画では、佐賀に住んで良かったという一人一人の感覚を何らかの形で指標として設定したいと考えている。

P39 の中ほどに「地域幸福度 Well-Being 指標」と記載している。これは、客観的な指標と主観的な指標を活用して、市民の暮らしやすさと幸福度を数値化、可視化したものである。国でも全国の市町村の指標を作成している。佐賀市の資料については、独自に主観的なアンケートを行い、主観的なデータを補足して精度を高めている。

幸福度や Well-Being を指標化することは、それぞれの生活に基づくものであり、非常に難しい。それをあえて客観的なデータと主観的なデータを組み合わせて、まちづくりに活かしていこうとしている。

この指標を用いることで、主観的なデータは低いが客観的なデータは高い、あるいは他の自治体と比べて優れている点と弱点が分かるようになる。比較検討しながら、一つのデータとして何に取り組むべきかを整理していく。

この指標だけですべてを表すことはできないが、例えば 5 年後や 10 年後に同じ手法で測定した際に数値が上がっていれば、まち全体の幸福度が高まっていると考えることができる。そうした大きな概念でこの指標を活用していきたいと考えている。

○委員

P32 の 2040 年に目指す姿に関する部分について、「佐賀らしさでみんなが上を向くまち」というタイトルから、そういうまちづくりをするのだというのがうかがえる。一方、佐賀は歴史や文化において素晴らしい城下町であるという点が前提にある。ただ、現実には無計画な施設の建設や、低層の建物ではなく高層のマンションが建設されるなど、佐賀市らしさが失われつつあるとの懸念がある。確かに、これまでのやり方が正しいと思う人もあるが、私は疑問を持っている。佐賀市のまちが好きであると同時に、市民が誇りを持てるようなビジョンであるべきだと考えている。

○事務局

当然、佐賀に誇りをもって頂きたいという思いは同じである。その点については、佐賀らしさということも、多分委員の皆さんが思われる佐賀らしさは違うと思う。ここも各委員から、やはりこういうところは大切にしながら、まちづくりを進めるべきとか、様々なご意見をいただきたい。

○委員

以前、他の総合計画の委員を務めた経験があり、計画策定には膨大なエネルギーが必要

と感じる。しかし、計画策定後の社会が実際にどのように変化するかは分からないところがある。特にパンデミックのような出来事が未来を予測するのを難しくし、不確実性や変動性、複雑性、不透明性が増している。つまり、計画どおり進まないという前提で計画を立てるということが、私はとても大事だと考える。

○事務局

将来が不確実な社会となっている。逆に、今から 16 年前を振り返ると、スマートフォンや iPhone が誕生した。そして、生活に大きな変化をもたらしていることと思う。将来の 16 年を予測することは難しく予測が外れることもあるが、その一方で、人口減少の中で行政のリソースを重点的にどこに割り当てるかを考える必要がある。総合計画は抽象的で網羅的なものであるため、行動計画として P5 に示すとおりアクションプランを設定する。4 年ごとに更新するこの戦略の中で、取組内容等をブラッシュアップしていきたい。

○委員

計画の横断的な考え方が大変重要だと考えているのだが、その中で外国やグローバルの観点についてはもう少し強調されても良いと考える。観光や教育などの分野で外国人の受け入れや労働力の活用が地域経済にとって不可欠であり、インバウンドやグローバルな視点を持つことは佐賀市にとって大きな価値判断である。地方自治体は世界とのつながりを重視すべきであり、ヨーロッパの自治体が市民参加を通じて成功している例も参考にすべきと考える。これらの国際的な視点を計画に含めることが有益と考える。

○事務局

グローバル化ということで、ここはおそらく皆さんも実感していると思うが、生活の中で外国の方が増えてきたなと思っている。そうなると、外国の方を客としてではなく、共に暮らす、一緒に暮らす、そういう共生社会が必要となるし、そのための社会参画が必要となってくる。同じ労働者であり、子育てをする仲間であるというようなことで、そこに対してどういう困りごとがあるのか行政としても考える必要がある。そういう点について、今後、基本計画の中で考え方を示したい。

○委員

先ほどの委員のグローバル化に関する提案は重要と捉えている。日本国内の佐賀らしさだけでなく、世界の中での佐賀らしさにも目を向けるべきと考える。国の施策が我々市町村におりてくるには、かなり時間がかかることも考慮し、市町村レベルで先立って国際情勢をある程度視野に入れていく必要がある。国際情勢が変化したときにみんな

が道連れになって、引っ張られないために、日本の中でも世界に打って出るような佐賀市であってほしい。
また、その評価基準の中で、計画では何を比較対象にするのか、国際情勢の影響も受けてそれを評価するものなのか、国内の中だけで評価するものなのかをご教示いただきたい。

〇事務局
佐賀らしさや幸福度は、他との比較だけでなく、総合的な視点から考えるものと捉えている。その点において、Well-Being 指標のような統計データを用いて、佐賀の特徴や地域性を把握することは必要である。それぞれ個人の価値観としての佐賀らしさも重要だが、グローバル化の中で佐賀らしさを考える際には、国内だけでなくインバウンドや観光客など様々な視点からの比較も必要である。そのような視点から、佐賀の強みや特性を明確にしていくことが重要だと考える。

〇委員
いまの佐賀市の将来像が明確でないと感じている。総合計画を読んでも、分からない。しかし、16 年後のある程度の想定はできると考える。例えば、住宅地の高齢化やフル規格新幹線。他にも、P41、42 でいうと、今まで 50 戸連たんで、都市部から郊外に宅地を広げておきながら、今になって、また都市部への集約をするっていうのはなかなか難しい部分あるのではないかなど。
行政には、もう少し具体的に、現状はこうだけど将来展望はこういうふうに考えているというところを明確に出していただいたらもっと議論が深まると考える。

〇事務局
50 戸連たん制度と新幹線の話があったが、それぞれ、内部の中でも検討を行っているところである。先ほどの意見を踏まえ、情報については検討をしていきたい。

〇委員
バックキャスティングの発想を考えたとき、私の考え方は、経験則に基づいて考えてしまうのではないかと感じている。その観点で、この審議会の委員について、もう少し若い方が入っていても良かったのではないかと思った。たとえば、大学生等にリモートで入ってもらえば、将来どんな佐賀市に住みたいのかは、若者は真剣に考えると思う。

〇事務局
資料の P10 以降において記載しているが、アンケートの実施に際しては、年齢や地域性などの要因を考慮し、若い層に区分をかけて対象者を抽出している。また、高校生や大

学生とのワークショップも実施し、若い方の意見を補完できるような取組を行っている。この点を参考にしていただきながら、ご指摘の点は会長と調整させていただきたい。

○委員

説明の中で、価値観を変えるというような言葉があり、軽い違和感を覚えた。

価値観はむしろ共有することが必要、理解が必要であり、それで変えるべきは視点と思考と行動と考えている。2040 年には高齢の方が相当数になると、つまり、幅広い世代の人がこの佐賀市で生きているという価値観を共有する方向で、今回のキーワードであるバックキャスティングということで考える必要がある。

○会長

価値観を変えるというよりも、むしろそれを方法で何とかカバーしていくようなことが、必要でないかという意見だった。

さて、時間も迫っているため、今日、この場で発言しなかった、発言できなかったことがあれば、事務局のほうにメールや手紙等をお願いしたい。

9　分科会の設置について

○会長

総合計画審議会条例第５条では、会長が必要と認める場合に、この審議会に分科会を置くことができるとなっている。総合計画は、内容も多岐にわたるため、分科会を設けて、分野ごとに専門的に審議をした方が良いと考える。

また、分科会の構成については、会長が指名する委員をもって組織するようになっているが、事務局から案を示していただきたいと思うがよろしいか。

＜拍手＞

＜事務局案の配布＞

○事務局

事務局案を説明する。総合計画（案）の基本構想と政策を４つの分野にまとめ、以下の分科会を設置したい。

・基本構想、文化・スポーツ、コミュニティ、行政経営を「総合・地域分科会」

・子育て・教育、健康・福祉を「こども・教育・福祉分科会」

・経済・観光、農林水産を「経済・産業分科会」

・生活・環境、防災・安全、都市・交通を「くらし・環境分科会」

○会長

ただいまの説明のとおり、４つの分科会を設置したいと思うが、異議はないか。

＜拍手＞

〇会長

それでは、４つの分科会の設置を決定したい。今後は、この分科会での審議が中心となるため、分科会の円滑な運営のために、分科会の会務を総理する分科会長を選出したい。このことについて、どのように取り計らえばよいか、意見があればお願いしたい。

〇委員

事務局案を提示いただきたい。

〇会長

事務局案というご発声があったため、事務局から案を提示させていただいてはと考えるが、いかがかだろうか。

＜拍手＞

〇会長

それでは、事務局案を提示いただきたい。

〇事務局

・総合・地域分科会に、山下宗利委員
・こども・教育・福祉分科会に、田口香津子委員
・経済・産業分科会に、内山真由美委員
・くらし・環境分科会に、猪八重拓郎委員

にお願いしたい。

〇会長

事務局から分科会長に関する説明を受けたが、いかがだろうか。

＜拍手＞

〇会長

それでは、事務局案を採用し、分科会長をお願いしたい。

１０　今後のスケジュールについて

≪説明≫

○今後のスケジュールに関する説明（事務局）　資料３

１１　閉会